

岩手県総合計画審議会  
第3回岩手の学び・文化・スポーツ部会

(開催日時) 平成30年2月13日(火) 13:30～15:15

(開催場所) サンセール盛岡 2階 福来(東)

- 1 開 会
- 2 委員及び事務局自己紹介
- 2 議 事
  - (1) 次期総合計画の構成について
  - (2) 次期総合計画における政策分野ごとの取組方向について
  - (3) その他
- 3 閉 会

出席委員

浅沼道成委員、五十嵐のぶ代委員、伊藤昌子委員、恒川かおり委員、  
早野みさき委員

欠席委員

青木幸保委員、鎌田英樹委員、熊谷雅英委員

1 開 会

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 ただいまより、第3回岩手の学び・文化・スポーツ部会を始めたいと思います。

事務局を担当しております田澤です。よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります前に今日の審議の概要、会議の進め方について御説明いたしますので、資料1を御覧ください。今日の部会では、まず議事の1つ目としまして、第2回部会までに出された御意見を踏まえ、事務局で検討してまいりました次期総合計画の構成骨子(案)について御説明いたします。

それから、議事の2として、次期総合計画における政策分野ごとの取組方向につきまして御説明いたします。特に本部会に関わりが深いと考えられます①から⑤までの分野を中心に御意見をいただければと考えております。

議事3として、その他何か委員の皆様からあれば御意見をいただきたいということでございます。

それから、本日は、部会の議論の状況を3時半から始まる総合計画審議会に報告することになっております。そのため3時をめぐり一旦休会をいたしまして、事務局で御意見をまとめたペーパーを御用意しますので、委員の皆様には御覧いただき、確認いただいた上で審議会でも部長から御報告をしていただくことになっておりますので、よろしくお願いいたします。

説明は以上です。以後の進行は浅沼部会長にお願いいたします。

## 2 議 事

### (1) 次期総合計画の構成について

### (2) 次期総合計画における政策分野ごとの取組方向について

### (3) その他

○浅沼道成部会長 それでは、最初に今お話のありました計画の構成について、事務局から説明をお願いいたします。

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 次期総合計画の構成骨子（案）ということで、部会資料2を御覧いただきたいと思えます。

まず、構成骨子（案）ということで、次期総合計画の大まかな構成をお示ししております。第1章の「はじめに」では、計画策定の趣旨、計画の役割、計画期間、それから計画の構成、計画推進の考え方を説明するというところで考えております。

第2章の「理念」では、今回「幸福」をキーワードとした次期総合計画をつくるということです。今後文章のほうは肉づけをしてまいります。骨子レベルでは以下に書いてあるとおりに想定をしております。

まず、時代的背景から入りまして、高度成長期にはGDPなどの経済指標が用いられてきたわけですが、社会の成熟化や価値観の多様化、そういったことで経済指標のみでは人々の幸福や、社会の状況を把握することが困難となっていることから、心の豊かさやつながりなどに着目することが重要というところで、時代的背景をまとめております。

本県における背景とすれば、まず復興で一人ひとりの幸福追求権を保障するというところで復興を進めてまいりました。それから、昨年、全国知事会議において「岩手宣言」が採択されましたが、その中でも一人ひとりの住民が復興を実感できる真の「復幸」ということを成し遂げるといった宣言をされております。こういったところは、復興の中で一人ひとりの幸福に立ち返って人間本位の復興を進めようとする考え方に立脚したものであるとした上で、こうした復興の考え方を県政全般に拡大をして一人ひとりの幸福を守り育てていくことが重要であるというようなまとめをしまして、いわて県民計画の成果を踏まえながら幸福を守り育てるための取組を展開していくことで県民一人ひとりが互いに支えながら幸福を追求していくことのできる地域社会へと向かっていくことが可能であるといったような形を考えてございます。

第3章の「現状認識、展望」では、世界、日本、岩手の現状認識や展望をまとめてまいります。

第4章の「将来像」では、現計画では基本目標として、「一緒に育む希望郷いわて」を掲げておりますが、次期総合計画の将来像は今後議論をしてまいります。

第5章の「復興推進の基本方向」では、復興基本計画の考え方をしっかり引き継ぐということが基本ということをまず1番のところ書きまして、2、3、4、5につきましては県の復興委員会等の御意見も踏まえながら検討してまいります。

第6章の部分につきましては、次の資料のところで詳細を説明いたします。

第7章の「長期的・政策横断的に取り組む重要構想」では、10年をかけて取り組むプロジェクトということでまとめていきたいと考えておりますが、専門家の御意見も伺いなが

ら、少し時間をかけて検討してまいりたいと考えております。

第8章は広域振興局において、具体的な検討を進めております。

第9章は県政運営の基本姿勢といった部分を中心に検討してまいります。

資料3を御覧いただきたいと思います。具体的にどういう政策分野を置くかということですが、現計画では、産業雇用や、農林水産業、医療、子育て、福祉といった、ある程度県の組織に対応した形で7つの政策分野としております。次期総合計画では、その組織の形には余りとらわれずに幸福の要素を重視した政策体系にしてはどうかということで考えており、研究会で示された幸福に関する12の領域をある程度グルーピングし、8+1の政策分野を設定してはどうかということで考えております。

上から説明してまいります。まず、幸福の12要素のうち、幸福を考える上で、個人にとって重要な要素である健康と、健康づくりにおいても大切な余暇を組み合わせた「健康・余暇」という一つの柱を考えております。該当分野のイメージは医療、福祉分野に加えまして、文化芸術、スポーツ分野、生涯スポーツということで、県民が楽しんだり、観賞したり、といった部分を「健康・余暇」に入れてはどうかということで考えております。

次に「家族・子育て」ですが、社会の最小単位である家族、それからその中での重要な活動となる子育てを組み合わせた柱をつくってはどうかということで、該当分野のイメージにもありますとおり、結婚から始まりまして、家庭教育、社会教育、子どもの貧困も含めた子どもの支援といったところをこの柱の中に入れていくということを考えております。

それから、教育については、該当分野にもありますとおり、学校教育も含まれるわけですが、それ以外の産業人材の育成や、国際人材の育成、スポーツ人材の育成ということで、ここは競技スポーツあるいはスポーツ指導者等の養成も含めた人づくりに関わるものをこの柱の中で一括してまとめてはどうかということで考えております。

「居住環境・コミュニティ」では、住まいや周囲のまちづくりの居住環境と多様な主体が連携して形成されるコミュニティを組み合わせるということで、後ほど御説明いたしますが、この地域づくりの中には、例えば文化・スポーツによる地域づくりといった要素も入れてはどうかということで考えております。

次に「安全」ですが、こちらは防災や、感染症などのパンデミック対策のような取組を入れてはどうかということで考えております。

「仕事・収入」につきましては、現在の計画では農林水産業と商工労働関係、観光といった政策分野を分けていますが、それを一つにまとめまして、「仕事・収入」ということで柱を立ててはどうかということで考えております。

次に、「歴史・文化」ですが、この歴史・文化につきましては、岩手の誇りを育む上での背景となる歴史・文化を地域で守り、継承していくといった取組を柱に立ててはどうかということで、該当分野としましては、伝統文化、世界遺産、それからそれに関連した観光やツーリズム、国際交流などを考えております。

最後に、「自然環境」ですが、環境保全や再生可能エネルギーなどの分野をこの柱に入れていくということで考えております。

点線を引いた下のところがプラス1の分野ということで、研究会報告書では「社会基盤」という領域はございませんでしたが、幸福の8つの政策分野を下支えする共通の土台としての社会基盤ということで、1つ政策分野を追加してはどうかということで考えておりま

す。該当分野のイメージとしては、科学、情報、社会資本がございませう。個別の柱に入れ込んでいくと、細分化されてしまい全体が見えにくくなるということもございませうので、+1の政策分野として考えております。

一番下のところに書いてありますとおり、女性、若者、高齢者、障がい者あるいはNPOなどの多様な主体がこの8+1の政策分野にどのように関わっていくか、関わっていたきたいかということは計画の中で明らかにしていきたいということで考えております。

説明は以上でございませう。

**○浅沼道成部会長** どうもありがとうございました。

それでは、今の説明について、少しゆっくり資料を御覧いただきながら質問や御意見をいただければと思ひます。

この+1というところの社会基盤というのが新しく出てきたと思うのですけれども、当然のところというか、基盤がないといけなないので、そのとおりだと思ひますが、+1というのはつけなければいけないものでしょうか。

**○田澤政策地域部政策推進室主任主査** 今のところは8+1ということで整理してました。

**○浅沼道成部会長** この後、この中身の話を、皆さんに御意見いただきますが、この5つの分野というのは、ちょうど今の説明の中の資料3のところの内容で、その中の関連するところというのは次ですよ。何か一緒になっているような形でもいかがでしょうか、まずざっと構成ですよ、こういう骨子は、一般的な流れだと思ひますが、今の総合計画と構成的違いや目玉といったもの、ここはこれまでと違っているという部分はございませうか。印象としては、流れはこれまでと同じような感じがしますが、そこに「幸福」というキーワードは入ってくるのでしょうかけれども、第5章に復興というところが位置づいているということでしょうか。

**○田澤政策地域部政策推進室主任主査** そうですね、構成自体としましては、今のいわて県民計画をある程度踏襲したような形にはなっておりまして、総合計画という性格上現状分析や将来像、そして政策の基本方向といったような形でお示ししております。

**○浅沼道成部会長** はい、そう思ひまして、少し意識したのかなというところがあるのかと思ひたところですよ。

中身とは少し離れますが、第8章の地域振興というところ、広域振興局とのすみ分けというのはうまくここに載ってくるのでしょうか。どこかに説明が出てくるのでしょうか。

**○田澤政策地域部政策推進室主任主査** 基本的な考え方としましては、オール岩手でやる部分については第6章なり、下に書いてありますが、アクションプランで言うと政策プランに入ってます。

8章あるいはアクションプランの地域プランに入れ込んでいくことを想定しているのは

地域独自の取組ということで、特に産業振興の分野ですとか、あるいは地域振興でも特出しして何か独自性として打ち出せるものがあればそちらを書いていただくといったことで考えておりました、例えば県南圏域であれば、産業振興がかなりメインになってくるかと思えますし、沿岸広域振興圏であれば今復興道路の完成が見えてきていると、あるいは宮古一室蘭間のフェリー航路開設、そういったところに着目した独自の取組を入れ込んでいくようなことで、すみ分けを考えております。

**○浅沼道成部会長** 委員さん方から何かございますでしょうか。何でもいいと思います。地域振興のところにも「幸福」というキーワードもうまく入れ込んでいくのですか、それともここはここで別個に地域振興の独自のものを書き込んでいくことになりますか。

**○田澤政策地域部政策推進室主任主査** 地域ごとに地域独自の幸福というのを打ち出すのはなかなか難しいのではないかと考えておりました、まず第2章の理念や、あるいは政策推進の基本方向で幸福に着目した政策体系を立てたいと考えておりますので、そういった分野で基本的には幸福のカラーを出すということを考えておりました、地域振興のほうではそこまで幸福に特化したものは書かなくてもいいのではないかと考えております。ただ、地域独自に、例えば県南であれば平泉などいろいろありますので、そういった中から何か書けるものがあれば書いていくといったようなイメージで考えております。

**○浅沼道成部会長** 皆さん方どうですか、自分の近い分野のところでもいいと思うので、この後に自分の得意なところの分野に対する意見はあると思うのですが。

少し気になったのは、資料3の歴史・文化のところの「文化」という表現が基本的に伝統文化ですよね。文化というのはいろんな文化があって、若者文化もあればいろんな文化があって、でもここで取り上げる文化は、どちらかという今まで岩手で根づいてきた歴史の中で積み上げられてきた文化ですよね。ということで、文化の言葉の使い方の中で、ほかには出てきていませんが、スポーツも文化ですし、今の文化と歴史・文化とを分けるイメージでいいのでしょうか。

**○田澤政策地域部政策推進室主任主査** 現時点での案としましては、歴史・文化はおっしゃられたとおり、伝統文化や、文化財、あるいは世界遺産といったものをイメージしておりました、それ以外の文化・スポーツ等については、健康・余暇に文化芸術というのは入れておりましたので、そこで少し分けてみるというのが現在の案になっております。もしお気づきの点があれば御意見をいただければと思います。

**○浅沼道成部会長** そういう意味では歴史・伝統文化というのもありかなというのは少し気になりました。

いいですか、何かありませんか、ゆっくりと。

どうぞ。

**○伊藤昌子委員** 本当に素晴らしい県の人たちに見てわかりやすく、万人受けするような

文章にさせていただいて、とてもすっきりとまとめていらっしゃると思うのですが、教育の部分で、例えば「教育」は、「(主に学校教育)」と括弧でわざわざ書くということではなくて、いろんな経験をして、いろんな人と交流することによって、生きる力を高めていく教育のほうがいいのではないかなと感じますし、また、教育という部分に関しては、学力向上を主體的にうたうのではなく、「岩手県は自己肯定感を高めて、人として豊かな人を育てます」といったほうが岩手らしい幸福につながっていくのではないかと少し思った部分があります。それから、家族・子育てという部分では、やはり家庭で子育てを担うのではなく、地域で支え合って、家族も育っていく、子育てによって育っていくというふうなものが幸福により近いのではないかと思います。家族と子育て、仕事や男女共同参画、ライフワーク、さらに住居環境も関わる壮大な部分なので、まとめるのはすごく難しいのだらうなと思いますが。

○浅沼道成部会長 はい、どうぞ。

○恒川かおり委員 今の家族・子育てのところで社会教育の該当するイメージとして書いてあって、下のところに「(主に学校教育)」というふうに振り分けがされているというところもイメージなので、きっと幅広く捉えられているのかなという認識は持ちました。

私が少しだけ気になったのは、下のほうにある多様な主体のところは女性、若者、高齢者、障がい者、関係団体・NPO等と書いていると、逆に男性とか子どもはどこに行ってしまったのかなみたいな、何か逆差別というか、書きたいことはすごくわかりますし、多分女性とか若者が活躍するということをうたっていたので、それを言いたいのかなというのもすごくわかりましたが、これがもし計画にあらわすときはもう少し違う形になるのか、それともこの形のまま出てしまうのかというあたりを伺いたいです。

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 ありがとうございます。伊藤委員さんからいただいた御意見については、これはまだたたき台ですので、いただいた意見を踏まえて考えてまいりたいと思います。

自己肯定感の話も、前回の部会でも委員の皆様からかなりいただいていたものですので、そこは次の資料でも若干具体的な内容を説明いたしますが、そこを組み立てる際に少し検討させていただきたいと思います。

それから、さまざまな主体の関わりというところの御意見で、事務局のイメージとすると女性や若者が活躍できる社会というのは広くみんなが活躍できる社会につながるのではないかと、といったイメージで書いておりますので、実際の計画に書き込む際には、女性や若者などだけに特化した形ではなくて、県民皆さんに関わっていただくことを考えております。その中には当然女性も入りますし、若者も入るし、高齢者も入ってくると、そういったことですので、誤解が生じないように計画策定の際には、そういう形で入れ込んでまいりたいと思います。ありがとうございます。

○浅沼道成部会長 それでは、次はもう中身に入ってくると思いますので、次の政策分野ごとの取組について説明をお願いいたします。

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 それでは、資料4と資料5について御説明いたします。こちらにつきましては、先ほど御説明いたしました8+1の政策分野ごとの具体的な内容、まだイメージというところですが、そちらを御説明してまいります。

まず1つ目の柱、「健康・余暇」ですが、これはあくまでたたき台ですが、目指す方向性については、「こころと体の健康を守り高めていくための環境がつくられ、それから余暇をいきいきと過ごすための時間が確保され、多様な余暇を過ごすことができる。」ということで置いております。

具体的な取組方向ですが、これもイメージですが、上の3つは組織で言うと保健福祉部が所管しているような健康づくり、あるいは医療体制の整備、あるいは福祉コミュニティや、地域包括ケアシステムといった福祉分野の取組を置いております。

下の3つが当部会に関わりが深いところで、部会における主な御意見の生涯スポーツの3つ目にありますとおり、誰もがスポーツを楽しめるといったようなことが大事だということで、中項目のタイトルとしましては、みんなが楽しむ文化芸術や、みんなが楽しむスポーツ、それから生涯にわたり学び続ける環境づくり、生涯学習をイメージしておりますが、そういった分野をこの健康・余暇の項目に入れることを考えております。文化芸術では、県民が文化芸術を楽しむ機会の充実、新しい文化芸術の創造、アールブリュットの関係。スポーツについては、ライフステージに応じてスポーツを気軽に楽しめるような機会の充実、それから障がい者のスポーツ参加機会の充実といったところを挙げておりますし、最後のところでは学びと活動によって、地域の活性化を図っていくといったところ、多様な学習機会を提供していくといったような取組をこの政策の柱の中に入れていくことを考えております。

1枚めくっていただきまして、「家族・子育て」でございます。こちらの方向性につきましては、「結婚・出産・子育てに希望を持ち、子どもが家庭や社会でいきいきと育つことができ、家族が共につながり支え合うことができる。」ということで置いております。先ほど地域との関係といった御意見もいただきましたので、その辺のところは少し検討させていただきたいと思っております。

取組方向といたしましては、まずは安心して子どもを生き育てられる環境の整備、それから次に学校と家庭・地域との協働といった部分を、こちらの「家族・子育て」に置いてはどうかということで考えておりまして、家庭、地域との連携、家庭教育への支援、それから地域社会で児童生徒を育む環境づくり、それから子育て支援の整備、教育体制の整備といった項目を挙げております。

下のほうに行きまして、青少年の豊かな心を醸成する環境整備ということで、こちらについては広く社会教育の関係でありますとか、あるいはニート対策のようなものが入ってくるのではないかと考えております。

右下は、これは今の計画にはございませんが、人と動物が共存する環境づくりということで、ペットの関係の施策を今回入れてはどうかということで考えております。

3ページをお開きください。次が「教育」でございます。目指す方向性は「子どもが、教育を通じて、心豊かに学び、生きる力を高めることができ、また、様々な分野の担い手が地域で活躍している。」ということでございます。項目としては上から確かな学力の育成、

豊かな心と健やかな体の育成というようなことを掲げてございます。学力の育成よりも優先すべきものがあるのではないかといった御意見については検討させていただきます。

豊かな心と健やかな体の育成のところでは、学校・家庭・地域が連携したさまざまな活動の推進や情緒豊かな子どもの育成、豊かなスポーツライフに向けた学校体育の充実、それから健康教育の充実といったことを入れております。それから、特別支援教育も力を入れてまいります。

それから、下の真ん中の段に行きまして、学びの基盤づくりとして多様なニーズに対応する教育機会の提供といったことや、教員の働き方ということがいろいろ問われておりますが、そういった高い志を持つ有為な人材の確保・育成と勤務環境の適正化の推進といった項目を入れております。

それから、私立学校の支援、また、岩手で、世界で活躍する人材の育成ということで、4ページには前回までの御意見を整理してありますが、復興教育の関係についても御意見いただいておりますので、最初に岩手の復興教育の推進を入れて、それからふるさとを愛し、社会に貢献する人材の育成、あるいは、ライフプランニング教育の充実といった点、そういったところを入れております。

一番下の段が産業を担う人材の育成ということで、こちらで産業人材、1次産業を担う人材、医療、福祉を担う人材の育成といったことでまとめております。

それから、こちらでは文化芸術を担う人材の育成ということで、担い手あるいはそれを支える人材の育成という要素を入れておりますし、右下は、スポーツ推進を担う人材ということで、アスリートの競技力の向上、障がい者アスリートの支援、それから指導者等の養成といった項目を教育の柱の中に入れております。

4ページは、前回までの意見を取りまとめたものでございますので、ここは説明を省略いたしまして、5ページをお開きいただきたいと思います。「居住環境・コミュニティ」でございます。こちらは取組方向を見ていただくとおわかりのとおり、地域交通の確保の関係や地域コミュニティの活性化の関係、あるいは、NPO活動など多様な市民活動の促進といったことがメインになっておりますが、右下のところには、文化・スポーツによる地域活性化という項目を入れております。いずれ文化芸術、スポーツを生かしたまちづくり、地域活性化の取組というものをこの柱の中に入れてはどうかということで考えております。

1枚おめくりいただいて、6ページを御覧ください。「安全」でございます。こちらにつきましては、基本的には防災の関係、感染症対策、安全・安心のまちづくり、食の安全・安心と生活衛生の確保ということで、例えば、食の安全のところでは地域に根差した食育の推進といった項目を入れております。

7ページをお開きいただきたいと思います。こちらは「仕事・収入」ということで、先ほども御説明しましたとおり、農林水産業、それから商工労働観光関係、今まで別な柱にしていたものを一つの柱にまとめてございます。こちらについては、項目も多いので、説明は省略いたしますが、組織には余りこだわらずに、幸福の領域に沿ってこういった形にしてはいかかかということで考えております。

2枚めくっていただきまして、9ページを御覧ください。「歴史・文化」でございます。目指す方向性は、「歴史・文化を守り、次代へ引き継ぎ、活用することを通じて、岩手・地域への誇りが高まっている。」ということで、こちらは部会における主な意見等を御覧いた



だければと思いますが、歴史や文化の継承といったことや、歴史・文化を子どもはもちろん大人もしっかり語れるようにならないといけないのではないかといったような御意見、それから地域の伝統芸能の継承といった御意見、それから世界遺産の関係については、資産管理の視点だけではなくて、それを活用していく視点が重要だといった御意見を頂戴しておりました。

そういったことを踏まえ、取組方向としましては、まず岩手の歴史への理解増進と伝統文化の継承と普及ということで、岩手の歴史、伝統文化の普及啓発、情報発信の関係、あるいは郷土の歴史・文化の理解、醸成、食文化などの継承ということを掲げております。

それから、世界遺産の関係につきましても理念・価値の普及、それから新規・拡張登録の推進といった柱を立てております。そして、歴史・伝統文化による地域活性化ということで、いずれ歴史や、伝統文化を生かした交流人口の拡大等の取組を柱の中に入れてはどうかということ考えております。

10 ページを御覧いただきたいと思います。「自然環境」でございますが、こちらにつきましては、取組方向にありますとおり、循環型地域社会の形成、あるいは、多様で豊かな環境の保全、低炭素社会づくりといった中項目をつくりまして、それぞれ必要な取組を入れているところでございます。

また、1枚おめくりいただきまして、+1の9番目、「社会基盤」であります。こちらは「岩手の幸福を支える社会基盤が整備され、有効に活用されている。」ということで、科学・情報関係、社会資本の関係を入れております。

それから右下ですが、若者・女性が活躍できる基盤づくりということで、若者と女性の活躍支援の取組をこの社会基盤の中に現段階の案では入れているというところでございます。

次に、資料5を御覧いただきたいと思います。こちらは先週の金曜日に第3回の部会を開催した若者部会で出された意見について取りまとめておりますので、御報告いたします。若者部会では、議論のテーマとして、「新たな働き方」、「若者定着」、「岩手のPR」というところでテーマを設定されております。新たな働き方の望ましい姿としてはWワーク、フリーランスなど岩手で多様な働き方ができるといったことや、子育て中の人も意欲を持って働くことができるということを望ましい姿に設定をしております。取り組むべき内容としましては、右のほうへまいりまして、経験者による支援等のサポート体制の整備、企業経営者の意識改革、あるいは国のほうで今幼児教育の無償化のような動きもありますが、子育てに要する負担軽減策の推進、あるいは、保育園の充実等を掲げております。

テーマ2、若者の定着としましては、県外で経験を積んでから岩手に戻ってくることができるということ、多くの若者が県内に就職していること、それから、岩手ならではの若者の暮らしが実現できるという3つを望ましい姿に入れております。取り組むべき内容としましては、幼稚園や小学校のときから岩手に関する教育を実施すること、進学、就職前の学生、生徒に対する県内の企業などを知る機会の提供、それから、若者による地域課題解決型のプロジェクトの実施、県外への転出者が岩手のいろいろな情報を入手できるようなデータベースをつくるといったような提案をいただいております。

それから、岩手のPR方法のところでは、さまざまな斬新な方法等によりまして、上手にPRをしていかなければならないということ望ましい姿に置いております。取り組む

べき内容としては、役割分担を図りながらターゲットを明確にしたPRをするべきだといったようなこと、効果的な情報発信や情報媒体を使うべきだということと、岩手ならではのPRを実施するべきだといったような御提言をいただいております。

説明は以上です。

**○浅沼道成部会長** ありがとうございます。それでは、今の御説明いただきましたこの部会に関係するところということで、皆さんのお手元の資料1のところにあるような健康・余暇、家族・子育て、教育、居住環境・コミュニティ、歴史・文化というあたりに御意見、御質問いただければと思います。皆さん方がまずイメージ湧いたところから御発言いただいてよろしいかと思っております。

早野委員、大分スポーツのことを取り上げてもらっていますが、感じたことがあれば何か。

**○早野みさき委員** 健康・余暇のみんなが楽しむスポーツの推進といったところで、障がい者のスポーツ参加機会の充実があり、また、パラリンピックもあるので、障がい者の方の競技力向上もあればいいのになと思ったら、障がい者スポーツの競技力向上というのも後ろのほうであったので、すごく安心しました。障がい者の競技団体の方々が言っていたのですが、やはりまだまだ意識が低いというか、資格を取るのも難しいようで、そういうことに関心を持っていただければいいなというお話も聞いたので、今オリンピックもやっており、パラリンピックもあるので、そういうことで健常者、障がい者の隔たりがなくなるぐらい同じ競技力を向上させたいというアスリートとして意識が変わっていけば競技力の向上という部分がすごくいいのかなと思います。それから生涯スポーツという部分でもちゃんと入っていたので、そこは大事にしていただけたら健康年齢もアップし、充実した形になるのかなと思って見ていました。

あとはここで言うことが正しいかよくわからないのですけれども、競技力の向上という部分で、科学センター……

**○浅沼道成部会長** スポーツ医科学センター。

**○早野みさき委員** はい、医科学センターが今凍結状態となっていると思うのですが、ぜひそれを前向きに検討していただけたらなと思います。せっかくオリンピック、パラリンピックにも岩手県の選手出ていますし、いずれそういう方々が帰ってきたときの雇用の場にもなるかもしれないですし、スポーツということに対して岩手にはこういう施設があるのだよという自慢できるような施設になると思うので、凍結を解凍していただいて、考えていただければなというふうに思いました。

**○浅沼道成部会長** 今の話は基盤というところにもつながるのでしょうかけれども、基本的にやはり場がないとなかなか物が動いていかない。人だけ部署に置いてもやはりなかなか進まない。場があって、そこで回る。震災で国体のときを目指していた施設、ハードをつくるのはなかなか大変なのですが、そこを少し工夫してという意味ですよね。スポーツと

いうものをこれだけ挙げていただければというのを含めていくと、関連で、今の組織のあり方というのですか、スポーツ関係の岩手県で言うと行政があって、そのもとにというか、民間という位置づけになっていますが、公益財団法人の体育協会という組織があり、基本的には県とつながっている部分が強くあります。なおかつ施設管理のところと言うと振興事業団があって、この辺の再編というのが他の県では動いています。おそらく岩手でも検討はされていると思うのですが、そういった意味では、あともう一つ県が掲げたスポーツツーリズムということもあります。ツーリズム、スポーツコミッションといったような、いろいろなものが出ていますが、何か単発で、もう少し再編されるようなことが長期ビジョンにのってればいいと思います。これは実はNPOもそうだと思うのです。NPOも今県のところに私も関わっているアイーナに交流センターありますが、それらを含めて10年で岩手の分野、NPO活動、あるいは、スポーツの活動が幸福に向かうに当たって重要だという位置づけになれば、それを支えていく基盤としての再編といったことはどこかに入ってほしいなと思います。今のままで言うと何も変わらないような気がしますので、何かそこをどこかにも入れていただければなというのは感じます。特に、NPO自体の活動というのは、今後少子化していけばすごく重要な役割を担う組織、団体なのですが、それが本当に生き生きと活動できるような雰囲気にはまだなっていないように思うのです。NPOを支援するという体制が今大きく流れが変わってきており、中間支援組織のような形が各市町村に結構できています。その市町村の中間支援と、県という立場からの支援のあり方という、その辺の整理を少ししていただいたほうがいいのかと思いますし、それらを含めていくと幸福感につながる政策が生きてくるような気がします。

**○恒川かおり委員** 少し違うところなのですが、さっきの政策体系というところと今浅沼先生のほうから、今のままだと施設のあり方とか、いろいろな体系のあり方みたいなものを再編していかないと何も変わらないのではないかとということがあったので、それに関連して。

**○浅沼道成部会長** はい、お願いします。

**○恒川かおり委員** 私は子どもと社会をつなぐということで、県民計画の視点からの取組を15年間やっているNPOなので、その視点で見ると、今出てきた全ての項目のほとんどが、例えば、環境教育の充実が大事だとか、食育が大事だとか、歴史文化や岩手らしさについても、必ず子ども時代からの取組というのが大事だよということが意見としてたくさん出されているなというふうに感じているのです。

もう一度最初の部会資料3のほうに戻ると、政策分野の考え方ではどうしても教育行政と、それ以外というのが分けられているのかもしれないのですが、さっき伊藤委員が話されていたように、実際に学校教育の支援というのをやっている、学校現場の捉え方としては、学校は学校でやらなくてはいけないことがたくさんあるのに省庁ごとの、例えば、環境省が進める環境教育もやらなくてはいけないし、人権教育もやらなければいけない、18歳の選挙になるとまたそれに対することもやらなくてはいけないというように学校側の負担が大きくなっているのです。その中で、それぞれの取組が一貫していなくて振り回

されているみたいに感じるというのは本当に大変だというようなことをおっしゃるのです。そもそもの教育行政とそれ以外が違うというのはわかるのですが、やはり子どものときから育てていかなければならないさまざまなことというのは、既に意見としてこれだけ出ていて、それをさっきの人づくりという考え方で体系、政策体系でも出ているのに、結局本来、一番の主役は子どもではないのかなと、10年後、20年後というのが今の子どもたちではないのかなとすごく感じたのですが、そこら辺を部局横断的にやるのは難しいのかもしれないし、教育行政と、それと分かれているのかもしれませんが、きれいに並べたとしても余り変わらないようなイメージを受けてしまって、何とかできないのかなというもどかしさを感じています。どんなにそれぞれ環境のほうで大事ですとか、健康、スポーツの取組も大事ですといっても、学校だけでやるのは非常に無理がもう出ていると思うのです。言葉的には地域と連携してみたいなのは出ていますが、では実際にどうなのかなという、言葉で言うのはすごく簡単なのですが、実際にやろうとすると難しいと思いますし、岩手としては子どもたちに、例えば、食育にしても、環境にしても、岩手らしさにしても、岩手への郷土愛にしても、自己肯定感にしても、岩手として本当にしっかりと育てていくのですよということを、それがそれぞれ一人ひとりの幸福というものにつながり、一人ひとりが幸せに生きていく力の醸成につながるのですということを何か打ち出せないのかなというのは体系を見ながら感じました。

以上です。

○浅沼道成部会長 どうぞ。

○五十嵐のぶ代委員 今、恒川委員がおっしゃったことに私も同感で、例えば、2ページ、3ページの家族・子育てと、教育という部分ですが、学校というところに重複してどちらにも入っているのですね。例えば、特別支援教育関係ですが、実際に岩手県の学校の先生方というのは30歳前後の人数が非常に少ない状況です。新卒採用がここ1年、2年でだんだん増えてはきたのですが、少し前までは盛岡管内だけでも5名しか就職できなかったり、そういった状況の人数の少ない世代の人たちが多分この10年間で中核を担っていくと思うのです。そういったときの人材不足もそうですし、学校の先生方、さっきの話のとおり非常に忙しい中で、子どもたちの問題だったり、保護者の問題だったり、そういったことに取り組まなければいけない状況、特に中学校では、親の世代が教育に関して意識も薄くなってきているので、30年前くらいまでは進路指導を生徒だけにすればよかったのが、今は親のほうにも進路指導をしていかなければいけないということで、家族の中にも今までよりもかなり深く入り込んだような教育現場になっています。正直言って学校の先生方の幸福とはどこにあるのかなというふうに今回の資料を拝見させていただいて感じました。何でもかんでも学校、学校というふうに任せてしまうと、学校の先生方はまじめだし、教育委員会もまじめなので、一生懸命やるのですが、実際にそれが学校の先生方も含めた幸福度の向上に反映されないような施策であれば今までと変わらない状況になるのかなというふうに感じました。

もう一つ、よく若者、女性の活躍ということで今回も11ページですね、これも随分前から提唱されています。実際に私も仕事をしながら子育てをしていますし、今の立場の関係

の会議もかなり数が多くて時間のない生活をしています。それが現状です。そんな中で、子どもと会話をする時間というのが正直言って余りなくて、きちんと育てられているかなど、背中を見て育てはくれているのですが、実際に女性が活躍するということをうたう場合に、子ども、子育てという部分が必ず負担になってくるのが現状だと思うのです。なので、子育てをしながら活躍できるというところにもうちょっとターゲットを当てていただければ、何も変わらないではないかという状況からちょっと脱出できるのではないのかなど、ちょっと漠然とした意見なのですが、感想です。

**○浅沼道成部会長** この辺のことについて、ずっとお話を聞いていると、基盤というのは人なのだなと。人が基盤ですよ、ここにある基盤というのはハードっぽいところがあって、下のほうは人のことは書いてあるのですが、人づくりが要所に出てきますので、「人づくり」といった形でまとめてもいいような気がします。

少し気になったのが、「教育」という言葉でくくっていいものなのか、少し違和感がありますね。学校教育というと学力のところもあったり、何かいろんなところに入っていて、教育でうまくまとめているように見えますが、ぼやけている感じがします。感想として、教育という言葉で当てはまらないということではないのですが、あるいは、教育をもう少し特化してしまって、人材の育成、人づくりといった面をもっと表に出したほうがいいのかとも思います。

**○伊藤昌子委員** 私が言っているのかわからないのですが、増田前知事がおっしゃった消滅都市においては、1番が秋田県で、4番目が岩手なのです。教育の学力が高いところの人口流出が激しくて、結局都会に出てしまって、秋田が一番消滅すると。岩手県で学力向上をうたってしまうと、うたわなければいけないのだろうけれども、そうすると結局大学、就職と結局人口流出になってしまって、果たして岩手県は学力向上というよりは、もっと豊かな地域に誇りを持った、ここにある農林水産業でも、豊かに、大好きですと言って仕事してちゃんと結婚して子育てできて、生涯それで幸せに暮らせるということでもいいのではないかとこの間の教育委員会の研究会で感じてしまいました。だから、学力と幸福というのはつながればいいのですが、その点を教育委員会の人に聞きたいなと思います。

**○五十嵐のぶ代委員** ただ学力とうたうより、確かなとか、力をつける的な意味合いだと思います。

**○田澤政策地域部政策推進室主任主査** 3ページを御覧いただくと、確かな学力について項目はありまして、その中で学ぶ意欲を高める取組や、そういった授業を改善する取組を進めるということですので、必ずしもテストのことだけに特化したものではないと考えております。

それから、確かな学力の育成に向けた取組によって岩手県が、東京などの人材養成機関になってしまうのではないかとこのような御懸念かと思いますが、教育は教育の分野でまずしっかりやるとして、その教育を受けた子どもたちの選択肢が岩手県の中にある、ある

いは、県外の大学に一旦出たとしても、そこで力をつけて帰ってきたいと思ったときに帰ってこられる居場所があるといったような取組、そこはやはり教育の柱だけではなくて、仕事・収入や、あるいは、家族・子育てなど、それぞれの柱の取組を全体的にやっていると、一つの分野をやればいいという簡単なことにはならないと思いますので、総合的に8+1における政策をしっかりとやっていく中で、子どもの選択肢を岩手の中にどんどんつくっていく、あるいは、県外から来たいと思ってもらえるような選択肢をつくっていくということを政策メニューの中で、それぞれしっかりとやるのが大事なのかなというふうに考えています。

○浅沼道成部会長 どうぞ。

○本多教育委員会事務局教育企画室主任主査 教育企画室の本多でございます。

今委員からお話があった件は、教育委員会の中でもよく議論がされております。新聞報道で岩手県の学力が低い、低いというふうに出るのですが、そうすると学校の現場で頑張っている先生たちは、学力の点数は低いかもしれないが、高校を卒業する段階で希望する進路を実現している率は、岩手県はすごく高いという話をしており、これは要するに、就職している人たちが自分の希望しているところに行っているということだと思います。学力がなくてそうしているのか、それとも本当に子どもたちが望んでそうしているのかというのは、よくわかりませんが、子どもたちが高校や大学を卒業する段階で自分がやりたいと思ったことを実現できるような、必要な学力や知識、地域についての知識というのを養成していく必要があります。それと同時に、岩手県は地方創生ということも課題になっておりますので、岩手で学び、育ったことに誇りを持つことや、地域に誇りを持つということなど、そういうこともこれからはもっとやっていかなければいけないのかなと思います。その結果、今まで教育は学校教育がメインで、イメージすると場所的にも学校の中でやるのが中心でしたが、今回はこういう領域で整理し、エリアとしての学校だけではなく、地域の中でどう子どもを育てるかという考え方で、コミュニティの中でももっと学校の果たす役割があるのではないかと、そのような整理をしていただければ、これからの教育のあり方が見えてくるようになるのではないかと考えております。

○浅沼道成部会長 はい、どうぞ。

○伊藤昌子委員 県のほうでも重々ご存じで、そのような施策をこれからしていくということであれば、みんなの共通理解としていいと思います。

話で出ている中で、教育が話題になるというのは、岩手県というのは人をつくって育て、幸福な人を一人でも多くしていく、これからの10年間の施策ということもあり、教育という分野にすごく目が行くのだと思うのです。先生たちの業務や雑務が多いというところもすごく出ているので、先生たちの気持ちにゆとりがなければ子どもたちに愛されないというところも感じるので、そこら辺の岩手県独自の改革というような、例えば何年後に研修みたいなものがあるのですよね。

○本多教育委員会事務局教育企画室主任主査 教員免許の更新ですね。

○浅沼道成部会長 10年研修といったものもあります。

○伊藤昌子委員 そこをもうちょっと充実させるといった形で、教育から離れて研修に時間をとっていただくといった改革でもいいかなと思います。

○浅沼道成部会長 どうぞ。

○五十嵐のぶ代委員 さきほど秋田の話が出たので、秋田は学力ナンバーワン、福井といつも競っていて、また更新したわけですが、秋田の人とこの間ちょうど話をする機会があって、岩手ってうらやましいと隣の県として思っているという話でした。というのは、まず先人がたくさんいる。秋田といえば誰といえば、尊敬できるような先人というのがいないので、岩手というのはこういった偉人がいたよという勉強するいいお手本となる方がたくさんいるよねというふうに言われました。

それともう一つ、大学が秋田よりはるかにある。秋田には余りないので、岩手の方が進路を選ぶのにいろいろ選択肢がある。その2つがうらやましいという話をされました。ですから、高校の進学率はほぼ自分の希望どおりにいっているというのは、そういった結果もあるのかなというふうに思っています。

P T Aのほうで、今一番学力のことで話題に出るのが被災地と県央部の学力格差です。今、学区外制が沿岸部はほとんど廃止されていて、希望する学校には学区外としてではなく、誰でも申し込める、受験できるというような状況になっていて、そうするとどうしてももっと勉強したいとき、例えば、お医者さんになりたいとか、教育現場に立ちたいというふうになると盛岡の学校に下宿して通うという形をとらざるを得ない。それを地域でもっと伸ばせるようなことができればいいのになというのが実際に保護者から出ている声です。

生活の部分に関しても、やはり被災地と内陸とではかなりの格差があるので、前回の会議のときに就職したいという子がいたのだけれども、家賃が高くて就職できない、そういう話があったとおり、なかなか希望したやりたい仕事につけないような現状という地域格差もよく保護者のほうから出ているので、その辺の溝を埋めるような、岩手県全県で地域、地域の特色を生かしつつ、平均化するのではなくて、生かしつついいところ取りで支え合えるような地域になるといいのになと思います。

○伊藤昌子委員 他県の大学の先生からも岩手の子どもはまじめで責任感が強く、仕事も長続きするという評価を聞いたことがあります。

○早野みさき委員 そういうイメージがありますよね。私もよく県外の大学に行きますが、岩手の子は本当にまじめに練習すると言われていています。それから岩手の子たちは岩手に帰りたいと言っていますが、就職先がないと言っています。私は自分の競技だけのことなのですが、そういう声をすごくよく聞くので、それはすごく実感しています。ありがたいで

すよね。

**○浅沼道成部会長** この間のデビスカップという国際大会を盛岡で開いたときの評価の中に、最高の評価をもらったのは、実はボールパーソンというボールを拾って渡すという係で、あれだけが地元なのです。審判をした人も全部県外から連れてきました。

実はその前の日の夜まで不安でした。夜ももう時間がないのに、短い時間だけの練習をしたのですが、これはまずい、クレームが付けられるかもしれないと思っていたら、本番がすごい。国際級だと言われて、今度この子たちをできればオリンピックで使ってもいいというぐらい評価高かったのです。多分岩手のよさという今の話につながるのかなと思います。いざ本番とか、やることに対して一生懸命ですね。審判から何と言われたかという、会場は暖房を入れて暖かくしたのですが、ボールパーソンを務めた子は、もう汗だくになっていて、審判から、シャツを着がえなさいと言われるぐらいまじめにやっていたことがすごく高評価だったのです。それが岩手県のある意味教育のよさなのかもしれませんよね、そういう人材が育っている。問題は、そこから次のところだと思うのですけれどもね。

そういう中で、私が今回こういう大会を誘致できたことは、やはり人の関係なのですよね、社会関係というか、人と人のつながりの中で、こういった機会が得られたと思います。岩手の中に閉じこもっていくと、実はその辺がいい能力を持っているのに発揮できないでいて、逆に萎縮していくというのが、早野委員のように世界を見てくると、岩手に帰ってこられたときに、視野も広いし、何かあったときに誰かに頼めばいろいろなことができる、そういうものが財産になっていきますよね。岩手に就職することはいいことですし、そのように進めていくのですが、そういう人と人とのつながりを持つように、その人たちがもっと外との交流もうまくできるような仕組みというのがあればいいのではないかと思います。そうすれば、さっきの教育ではないですが、まず一回出てこいとも言えるのではないのでしょうか。出てきて、戻ってこられないのが今だから、戻ってくるためといったときの環境をいかに岩手の中で「幸福」というキーワードでつくれるかということだと思うのです。そこはもしかしたらお金ではないのだと思うのですよね、やはり生きがいというか、岩手に住んでいて楽しいという、何かそういうところも見ないと何でもかんでも閉じ込めているような気がするのですよ。大学も地域創生の中で岩手に就職するようと言いますが、すごく能力が高い学生でも岩手に就職すると小ぢんまりしてしまうものも出てしまうのです。それがもったいないなと思っていて、何でもかんでも岩手に就職できればいいのではなくて、一回出てきて戻るといいうことも選択肢に入れられればと思います。

**○早野みさき委員** 戻ってくることも大事だと思うのですけれども、外で活躍して、大友監督のようにすごい方が岩手の出身というのもいいのかなと思います。

**○浅沼道成部会長** そういうつながりもありますね。さきほどの話で、岩手は偉人がたくさん出ていると、その関係で実はこっちがいい思いもしているのがたくさんあるのですよね。そういう中で、岩手が豊かになっていけばいい、岩手だけではないのですが、そういう人を輩出している県であり、そういう人たちがつながれる県であり、そういう人たちと



つながった人たちが地元でそれを受け入れて、それをなおかつ豊かに発展させるような、創造できるような県、そういう人材育成という面も進められればと思います。

○早野みさき委員 「教育」という言葉ではないほうがいいかもしれませんね、何となく・狭い感じになってしまいますものね。

○浅沼道成部会長 ですね、そこは違和感のある意味なのだと思うのですがけれども。

○早野みさき委員 そういうのも含めた人材育成ということですね。

○浅沼道成部会長 そうですね。だから、さっきからこだわるのは、資本的なところというのがハードになり過ぎていて、もっとそれ以上に人という感じがします。

それから私の関係するところ、この間やった国際大会の中で言うと、要は宣伝が下手だということがありました。要するに、あれだけの人が入っていたにも関わらず、実は少し空白というか、席があいていたのです。テレビから見ると、すごく大きくあいているように見えてしまっていたのですが、実は非常にぜいたくに使っていて少しでも見づらいところは全部席あけてしまったのです。それが真っすぐカメラを撮ると、がらんとあいている、ということがあったのです。岩手の中にいろんなものの今言った本物というか、そういったものがたくさん来ている中で、実はその価値を気づかない、気づけていないとか、もったいないとか、ああいうものが気づけて、みんながそれをうまく共有できていければいいのになという感じがしました。

○恒川かおり委員 さっきのPR不足というのも、見方を変えると謙虚とか……

○浅沼道成部会長 謙虚、いい謙虚ですね。

○恒川かおり委員 すごくいい面でもありますよね。そこら辺は自分が、自分がという感じにならなくて、みんなのこと考えながら見やすいようにという配慮なわけですね。

○浅沼道成部会長 その辺は紙一重ですね、どっちというわけではないけれども。

○恒川かおり委員 教育という言葉ではなくていいと。

○浅沼道成部会長 そこに今回の部会の意見、教育が悪いわけではなくて。

○恒川かおり委員 難しいですね。

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 「教育」としているのは、幸福の12の要素の中に「教育」とあったので、それをそのまま引っ張ってきたということなので、教育とした場合に何か狭いような、学校教育とか、そういう御意見いただいていたので、こういっ

た点も検討いたします。

○浅沼道成部会長 どうぞ。

○伊藤昌子委員 歴史・文化や仕事・収入など、岩手の誇れる先人といったものは、産業、歴史、文化にも盛り込める一つの要素なのではないかと思っています。南部鉄器やそれから小岩井農場のような自然がすごくいいなと思っていて、南部鉄瓶や秀衡塗といったものが載っているといいかなと思います。歴史や伝統文化だけだと大まかで、少し伝わりにくいなという感じがあります。仕事・収入にも関われるいい素材なのではないかなという部分であって、前にせっかくいい伝統工芸がたくさんあるのに海外になかなか輸出していないという話もあって、もったいないなと思っていましたので、ぜひ世界にPRしてほしいなと思います。滝観洞でも、龍泉洞でも、久慈でも、陸前高田でも、それ自体が資産になり得ると思います。

○浅沼道成部会長 自然ですよ、岩手は自然が資産です。皆さんすごく素晴らしいと言いますよね、岩手の自然を。この間もそうですけれども、イタリア人も、やはりすごく寒かったけれども、すごくきれいだと言っていました。

○伊藤昌子委員 普通に気仙川でアユが釣れるのもすごくびっくりされているのですよ、よそから来る人が。地元ではあまり意識されていませんが、そういうことも素晴らしいのではないかなと思います。

○浅沼道成部会長 そして、それをどう活用していくかだと思います。地域の魅力について、自分たちが知らないでいる部分と、知っているけれどもそのまま放置しているものもあるかもしれない。例えばこの間、平泉の町長さんが言っていたように、世界遺産になってから、それを本当に活用していくということもあります。あるいは橋野鉄鉾山もそうですが、いかにあれを使っていけるかというところ、また、発展していけるのかが歴史・文化の分野でもう少し強く出してもいいのかなと思います。世界遺産についてテレビでやりましたが、イタリアあたりのどこかのまちで世界遺産から外れたほうがまちが発展するというので、世界遺産のままだと橋をかけられないから遺産から外れるという選択をして橋かけた。岩手はそこまでいかない。平泉や橋野鉄鉾山、それから国立公園の八幡平といったきれいな自然、あるいは龍泉洞や遠野など、いろんないい伝統的な、歴史的なものを持っている県だから、もっとうまく発信していけばいいと思います。それは外の人たちだけではなく地元に対してもですよ。この前恥ずかしかったのは、外から来た方が、岩手の歴史について、いろんな質問をされていたのですよ。博物館やいろんなところを見に行っていて、質問ばかり受けたのですが、答えられなかったのですよ。

だから、そういう意味で、子どもたちはもしかしたら勉強しているかもしれないけれども、我々はもう忘れてしまったというか、市民の方、県民の方たちも自分たちの歴史をもう少し再教育ではないけれども、改めて地元の歴史を学ぶというような癖をつけていくような運動のようなものもあっていいような気がします。県民が持つておくべき知識として

の、歴史的な知識を持つような活動のようなものを盛り込めば、文化としては非常に高尚で、教養としても県民がレベルアップしていくし、豊かになるのではないかと思います。そういう知識を再度見直せばいいのではないのでしょうか。

だから、NHKの大河ドラマが来ればそのときはみんな地元の歴史といったことも思い出すかとは思いますが、来ない限りはだめというのではなくて、常日頃からそういった教養を身に着けられるようになればいいと思います。

**○早野みさき委員** 何かそういうところにつながるかわからないですけども、よく見える化させるとか言いますよね。見える化させることでそういうことも、それがPR上手につながって、岩手の人が岩手のよさはこうだというのがわかれば、一々教育に入れ込まなくてもいいのかなと思います。一石二鳥、三鳥というわけではないのですが。岩手は大きいので、自分が住んでいる地域以外はあまり知らないように思います。そういう他の地域のことをもっと目にする、意識もするのかなと思います。社会の教科書でリアス式海岸を学ぶように、それは日本中の人が知っていることだと思うのですが、そういうのを見える化するといいいのかなと思います。

**○恒川かおり委員** 私たちが中学校や高校、小学校でも言っているのですが、いろんな大人の人と子どもが学び合うという取組をずっとして、その中で勉強について話し合ったり、幸せって何というのをこの間やったのですが、ある中学生が幸せというのは自分はやりがいか、生きがいか、自分自身が成長することだと言うと言ってきて、すごくいいことを言うなと思いました。それからなぜ勉強するのか、というテーマでやりたいというある学校があって、そこで50分間の語り合いをしたのですが、そのときには勉強や教育という言葉は、強いられている気がして、それを成長の時間のようにしてくれたら、すごく頑張ろうと思うようになるといったことを中学生が言っていて、そのときには、ああ、なるほどなと思った一方で、ただ教えられたり、強いられたりするのもすごく大事だと思うので、それがそっくりそのまま必要だとは思いますが、皆さんがおっしゃっていたとおり、わざわざ施策として入れ込まなくても、大人が成長できるような、そういう機会があればもしかしたら自然とはぐくめるのかなとすごく思います。ただ、それはそんなに簡単ではなくて、何かきっかけづくりやいろんな方法が必要なのだろうなとは思っています。

**○浅沼道成部会長** 自分の専門というか、よく関わっている教育の話がたくさん出てきましたが、ほかにございませんか。

**○伊藤昌子委員** 先ほど五十嵐委員がおっしゃっていた、先生たちが保護者に対しても進路指導の時間がとられるという部分に関しては、私は子育て支援を普段やっていますが、インターネットだけで調べてわからないことというのがあって、人としゃべって、腑に落ちるところもあります。今のお母さんたちはどうしても生活を守るためや、自分の社会性ということでお仕事にすぐ出てしまうため忙しく、子育てをゆっくりすることが難しい状況ですが、そこに少しでも時間や気持ちのゆとりがあれば、お話することで解決することというのがたくさんあって、気づきがいっぱいあるのです。だから、出産して子育て、

あと話、結局はコミュニティというか、人付き合いが重要だと感じます。

○五十嵐のぶ代委員 そういうものもPTA活動だったりします。

○伊藤昌子委員 お話をするということが根っこにあるなと思います。人とずれたときは話せば解決しますし、私たちの部会の学び、文化、スポーツ、それからコミュニティというところも一つキーワードかなと思います。

○浅沼道成部会長 コミュニティですね。

○五十嵐のぶ代委員 結局PTA活動の中で、いつも問題視されているのは、子どもたちのインターネットの問題だったり、あるいはいじめだったり、そういったことが大きく取り上げられますが、根本的にはコミュニケーションなのです。そのとり方が今の子どもたちはわからなくて、携帯電話を持っている子どもは、中学生だと多分半々ぐらいだと思うのですが、今は、何でも携帯電話で解決できる。見知らぬ人に問いかけて、解決しようという気持ちが働かなくなっている。あとは謝れなかったり、そういうのも全部メールで謝ったり、自分が頭を下げるということ、人とどうやって近づくかということ、学ぶ機会が非常に少なくなってきたかなと思います。それをお母さん世代、お父さん世代の人たちも、もう生まれたときからゲームがあったし、機械があふれていて当たり前前の成長をしてきているので、やはり親世代の人たちもコミュニケーション不足で、自分の好きなこと、興味のあることはものすごく一生懸命取り組んだり、関わったりするのですが、全然わからないところはシャットアウトしてしまうのです。せっかくこの人はいろんなことできそうなのに、「こういうのやってみない」というと、興味がないとやらない。やらないで、もうずっとそのままというところがあって、子どもだけではなくて、大人も、若い世代の人たちももうちょっと原始的な生活を知るのが必要なのかなというふうに思います。

私たちが子育てを忙しくしてきましたが、私はとても忙しかった時代を感じたのが、昔はそういった収入だったり、そういったことを考えなくてもきちんとみんな子育てしていた、お父さんも、お母さんも子育てしていた。自給自足であっても生活できるような状況の時代もあったわけですね。だから、高収入でなければいけない、たくさん夫婦共働きにしないと子育てできないというような時代にいつなってしまったのだろうというふうに思いながら今に至るわけですが、それを悩んだ時期というのはものすごく短くて、子育てというのはアッという間に終わってしまいますよね。義務教育も9年間で終わってしまいますし。だから、知らないまま過ごして生活してきていて、今に至って、振り返るタイミングなく今に至るような感じですね。だから、それこそいろんな人たちと情報交換したり、話を聞いたりしなければ、今いる自分の立ち位置というか、本当に大事にしなければいけないことというのを感じないまま過ごしてしまっているかなというのも思ったりします。

○伊藤昌子委員 まず県の人たちから率先して早く4時で帰る人とか、例えばそういう日を無理やり半年に1回や3カ月に一遍でも実施してみてもいいのではないのでしょうか。

○五十嵐のぶ代委員 今言われているのは毎週水曜日や何曜日に帰るといったこともされていますよね。

○伊藤昌子委員 それから企業を表彰するだけではなく、もっと実践的なほうに移行して、生活の中で夫婦、家族でゆとり持つ時間を持てるようなのが幸福につながればいいなと思います。なかなか難しいですが、そこを何とかひとつやっただけければ。

○浅沼道成部会長 よく言われるのが、ドイツはある時間になるとぱっと帰って、本当に残業がないという社会です。何で働くのだという感じなので、意識が違います。日本とそれは全然違いますが、そういう意味では意識改革なのでしょう。働き方に対する意識改革しないといけない。一方で、そうして本当に大丈夫かという不安があるのが本音にはあると思いますので、難しいのでしょう。しかし、まさにいい意味の余裕を持った生活ですよ、それが豊かという話になり、それがイコール幸福という、家に人がいて、家族がいて、顔を合わす時間が多ければ幸福なのだと思います。それがもう土日すら親がいないといった状況の子どもはかわいそうだと思います。

○早野みさき委員 今は子どもも月曜日から金曜日まで予定入っていて忙しいですね。

○伊藤昌子委員 学校でも、第2、第4日曜日の部活を休みにしましたよね。

○五十嵐のぶ代委員 岩手県では、保護者会がスポ少扱いで練習をさせています。

○伊藤昌子委員 その辺りは、スポーツの人はどうなのですか、集中してやれば休みの日あってもいいのですか。

○早野みさき委員 私は小学校のときからずっと練習をしてきたほうですが、それまではそれでよかったのかなと思うのです。今の子どもたちというのは楽しむ競技と勝負に勝つ競技とに分かれています、勝負に勝つ競技は続ける子は少ないのです。だから、そういうちょっと余裕を持つとか、目線を変えろという時間は日本の子どもたちは必要なのかなと思います。

オーストラリアに遠征で行ったときに「一年中ホッケーしているの」と言われて、「一年中ホッケーのために時間を費やしている」と言ったら、オーストラリアの方は、冬は別な競技をやるそうなのです。夏にホッケーをやる、それで「嫌にならないの」と言われてすごく衝撃的でした。日本人というのは確かにそうだと思う、別にほかの競技やらなくてもいいのですが、ちょっと目線を変えろということも必要ではないかと思います。それから休みをつくらなければいけないのではとも思います。そうでないと続けられない、本当に続けた人が上に行くかもしれないですが、続けなかった人のほうが多いわけなので。

○恒川かおり委員 それで言うと、スポーツ推進を担う人材の育成という、そういう才能のある方をどんどん育成してほしいなと思いますが、もう一つほとんど一握りというところ

ろというリーダーシップであるとか、トップアスリート以外のフォロワーというか、フォロワーシップ、そういったことの育成というのはすごく大事なのではないのかなと思うのです。さっきのコミュニケーション能力不足というところにもすごくつながることなのではないかと思いますが、人のことをちゃんと思いやる、ほかの家族のことも大事にする、そういうことにもつながってくると思います。実際に会議でも全然顔とか見ないでずっとパソコンでカタカタやっていたり、携帯とかスマホをやりながらコミュニケーションしている大人がすごく多いなと思うので、やはりしっかり話をし、うなずいて聞くといったところから信頼関係が生まれたりとかすると思いますし、そういったフォロワーシップみたいなものの育成に岩手は力入れていますといったところも、もちろんトップアスリートも応援しながら、そうでない普通の人たちについても配慮できるような、リーダーシップやフォロワーシップの育成に力を入れていますみたいなのも一つの財産になるのではないかなと思っています。

○浅沼道成部会長 いろいろと意見、今ごろになってというか、盛り上がってきたのですが、時間的なものもあるので、ここで一回切っていただいて、今までの……。

○伊藤昌子委員 すみませんが、もう一点だけよろしいでしょうか。

○浅沼道成部会長 では、最後に伊藤委員お願いします。

○伊藤昌子委員 早野委員のお話を受けて、先生は部活でも多忙なので、月、水、木に部活をやって、その間は休むといったように、休みを増やせばいいかなと思いました。ここで委員が言うと変わっていくかなと思って言ってみました。

○浅沼道成部会長 そうですね、なかなか難しいところですが、部活は言われている割には違いますものね。

では、すみません、時間ですのでここで一旦休会したいと思います。

(休 会)

○浅沼道成部会長 それでは再開します。

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 ささまざまな御意見をいただきましたが、一通り見ていただいて修文したほうがいいのかどうか、趣旨が違うというところがあれば御指摘いただきたいと思います。

1つ目なのですが、教育における幸福を意識した施策ということで、自己肯定感の向上といったところを大事にしたほうがいいのではないかとといったものや、学力向上ということを必ずしも最優先にしなくてもいいのではないかとといった御意見をいただいたかと思えます。

それから、家族・子育てというのは、家族という狭い範囲だけではなくて地域とのつな

がりといったところを重視してはどうかという点。それから、参画を求める多様な主体というのが女性や若者だけではなく、幅広く捉えること。それから、さまざまな組織や団体などのあり方というのも検討するべきではないかという点。それから、人イコール基盤という考え方もあるので、人づくりといったものが一つのまとまりとしてもよいのではないかという点。それから、教育現場の負担ということも考慮した施策が求められるのではないかという点。それから、人と人とのつながりといったところを重視するべきではないか、あるいは、県外に出て戻ってこられる環境づくりというのがありますが、もう一つ県外で活躍しながら岩手とのつながりを持ち続ける人づくりというのも視点としてはあり得るのではないかなという点。それから歴史・文化、仕事・収入にそういった伝統工芸や、先人、偉人などの活用の視点も持って検討してはどうかという御意見。それから、岩手のよさの見える化ということで、日常的な岩手はあえて教え込まなくてもみんな理解しているような、そういった環境づくりと、そういったところの御意見をいただいたかと思しますので、御覧いただいて修正したほうがいいというところは御指摘お願いします。

○浅沼道成部会長 3番目がわかるようでわからない。参画を求めたような主体の範囲、言っていることはわかりませんが、これはどんな意見のまとめでしたでしょうか。

○恒川かおり委員 多分私が言ったやつですよ。

○五十嵐のぶ代委員 資料3の下のところです。

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 そうですね、資料3の一番下のところで、私どもの例示が女性や若者といった限定的に取られかねない表現でしたので、計画の推進に当たっては、幅広く県民が関わっていく内容とした方がよいのではないかと、といった御意見をまとめたものです。

○恒川かおり委員 例示に子どもや男性がなかったのも、ここが気になるという意見を出したことに關してですね。

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 そうです。

○浅沼道成部会長 ほかの部会の方たちに言うので、わかりやすく、少しくだけた表現になりますか。

○五十嵐のぶ代委員 県民全体で参画していく組織づくりとか。

○浅沼道成部会長 要するに、多くの方たちが、いろんな立場の多くの人たちがいろんなものに関われるようなという意味なのですよ、それが子どもであり、女性であり、高齢者でありということなのですよ。

○恒川かおり委員 さっき浅沼先生がおっしゃっていて、人づくりというような捉え方の部分については書いてない気がしました。人づくりとは書いていますが、さっき言っていたのは人づくりが教育にしても何にしても最も重要だといった意味だったかと思います。

○早野みさき委員 関係を持ち続ける人だけではなくて……

○恒川かおり委員 ささまざまな人間としての人間力の高いというか、そういった話題が結構出たのかなと思います。

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 3つ目については、例えば、さまざまな方にそれぞれの政策分野に幅広く参画を求めていくといった表現でよろしいでしょうか。

○恒川かおり委員 長期ビジョンに掲載するに当たって、女性、若者、高齢者、障がい者だけで足りない、漏れる人たちがいっぱいいるのではないかというふうな意味だったので、そういう偏りがなければ構いません。

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 それぞれの政策分野にさまざまな県民の方の参画を幅広く求めることといったような文でよろしいでしょうか。

○浅沼道成部会長 はい。

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 それから、あと漏れている部分についてはどのようにいたしましょうか。

○浅沼道成部会長 人イコール基盤でありというのは、要は人づくりも基盤だよという意味だったのですよ。

○五十嵐のぶ代委員 人づくりも含めて一つのまとまりとしてもよいのではないかと、こじつけかな。

○伊藤昌子委員 ただの人ではなくて、人間らしく、コミュニケーション能力が高くてお互い様の気持ちを持っていたり、相互向上できるようなことだと思います。

○恒川かおり委員 例えば子どもだけではなく、地域のよさとか、そういうのも学び続けられて成長していける、そういった環境や場所が必要なのではないかといった意見も出ましたね。だから学校教育や教育だけではちょっとくくれないといった感じになりますよね。

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 学校教育に限らず、人間力の育成、人間力の養成や地域とのつながりを育むなどの人づくりも基盤であり、一つのまとまりとしてもよいのではないかと、ということでもよろしいでしょうか。



○浅沼道成部会長 それでよろしいかと思えます。

○五十嵐のぶ代委員 それでいいと思えます。

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 報告時間は3分ということですので、浅沼部会長には報告をお願いいたします。

### 3 閉 会

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 以上で第3回岩手の学び・文化・スポーツ部会を閉会します。